

『創造の自由』を目指して。

University

Thinking Living

自由学園  
最高学部

  
JIYU GAKUEN  
COLLEGE

2027

## 『創造の自由』を目指して。

まだ知らない自分に、  
これからいくつ出会えるだろう。

好きなこと。気になること。

なんとなく心が動くもの。

今はまだ、うまく言葉にできなくてもいい。

学ぶことも、出会うことも、  
迷うことさえ、

未来をつくる大切な時間になる。

すぐに答えが見つからなくても、  
考えて、やってみて、また考える。

そのくり返しの中で、

自分の中にある思いや願いが、

少しずつ形になっていく。

何かを選ぶかだけではなく、

どう生きたいか。

どんな社会をつくっていききたいか。

その問いに向き合うことが、

「創造」のはじまりになる。

自由学園最高学部は

「創造の自由」を目指し、

自分の可能性を見つけ、

育てていく場所です。

# 自主独創 共生共創

Thinking Living Praying

# Creative Journey Map

## 最高学部の創造マップ

### Q1

大学ではなく各種学校であるのはなぜですか。

**独自の学びを自由に設計するためです。**

最高学部は真理を守る砦として、どのような時代にあっても独立を保ち、理想の教育を追求する自由を守っています。この理念のもと、一人ひとりの興味関心が学問的研究や創造的活動に、そしてそれぞれの生き方に繋がるカリキュラムデザインを実現しています。

### Q2

自由学園最高学部のリベラルアーツ教育の特長はどのような点にありますか。

**知識習得に留まらず、「知識×生活×実践」で、人間性、知性、実践力を磨きます。**

幅広い学びを土台に思想性を深めるとともに、知識を様々なフィールドでの実践と結びつけて体得することを重視します。単なる理論の理解ではなく、自分自身の行動やよりよい生き方を創り上げるための実践的で、実学的なリベラルアーツ教育です。

### Q3

2年課程と4年課程の違いはどこにありますか。

**2年で「軸」をつくり、4年で「自分の問い」を深めきります。**

2年課程の学びは、自由学園独自の実践型リベラルアーツを通じ、世界と自分自身への理解を深め、価値判断の土台となる軸を養います。4年課程はその土台の上に、より専門的な学びを通じて自身の研究を進め、同時に社会との関わり方を見極めます。

### Q4

生活経営研究実習の現代的な意義とは何ですか。

**サステナブルな学校づくりを通じて、サステナブルな社会を創る力を養います。**

足元の課題に日々向き合うことを通じ、持続可能なくらしと社会を創る力を養います。都市化が進む東久留米市で、自由学園は緑豊かな自然環境を、長く学生自身の手で守り続けてきました。生活経営研究実習はこの中心的な役割も担っています。

### Q5

興味ある分野を深めて学べますか。

**学問分野の枠を超え、個々の関心に従い学びを深めることができます。**

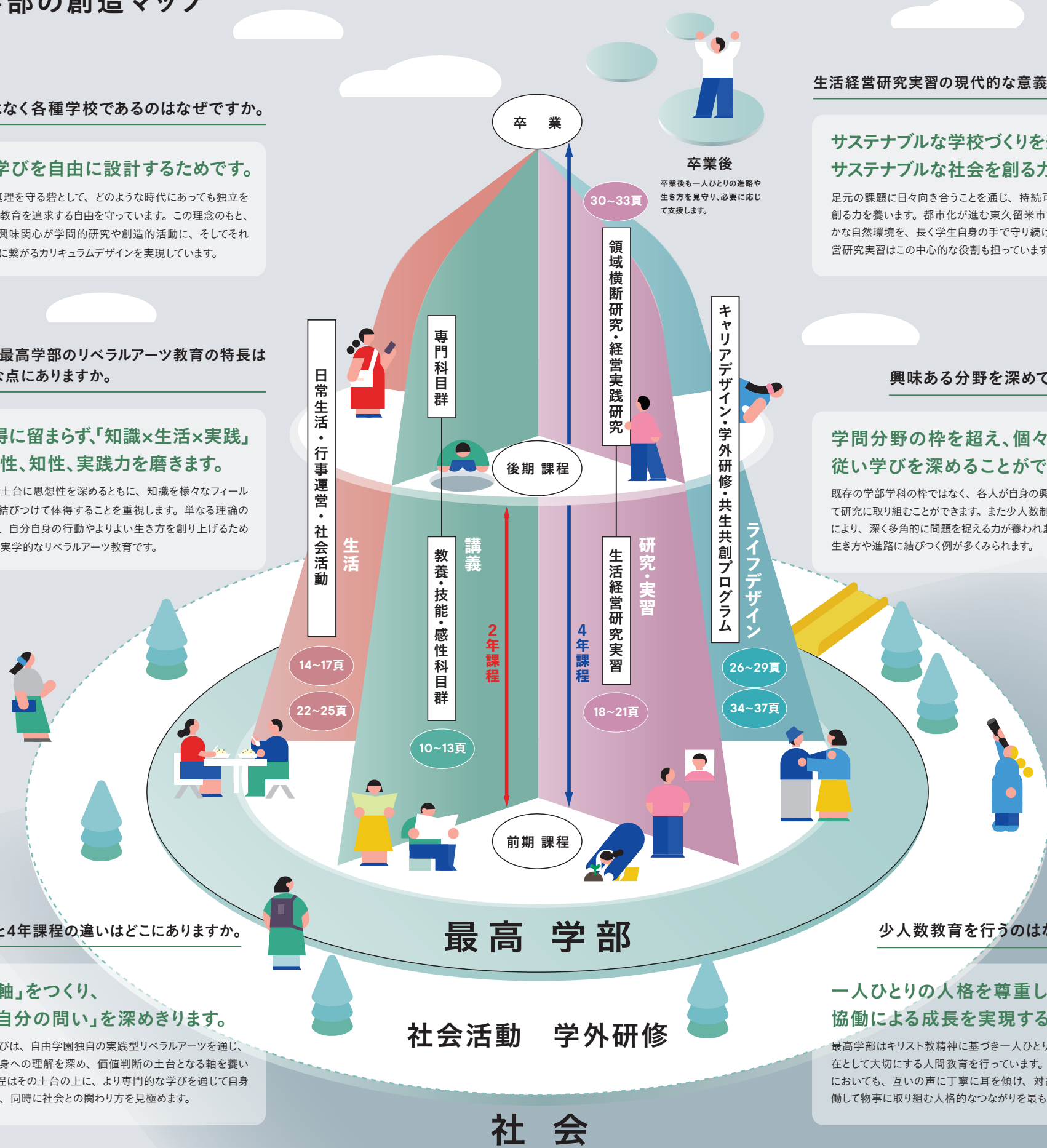
既存の学部学科の枠ではなく、各人が自身の興味関心を中心に据えて研究に取り組むことができます。また少人数制の協働的なゼミ体制により、深く多角的に問題を捉える力が養われます。研究がその後の生き方や進路に結びつく例が多くみられます。

### Q6

少人数教育を行うのはなぜでしょう。

**一人ひとりの人格を尊重し、対話と協働による成長を実現するためです。**

最高学部はキリスト教精神に基づき一人ひとりをかけがえのない存在として大切に人間教育を行っています。講義においても実習においても、互いの声に丁寧に耳を傾け、対話で思考を深め、協働して物事に取り組む人格的なつながりを最も大切にしています。



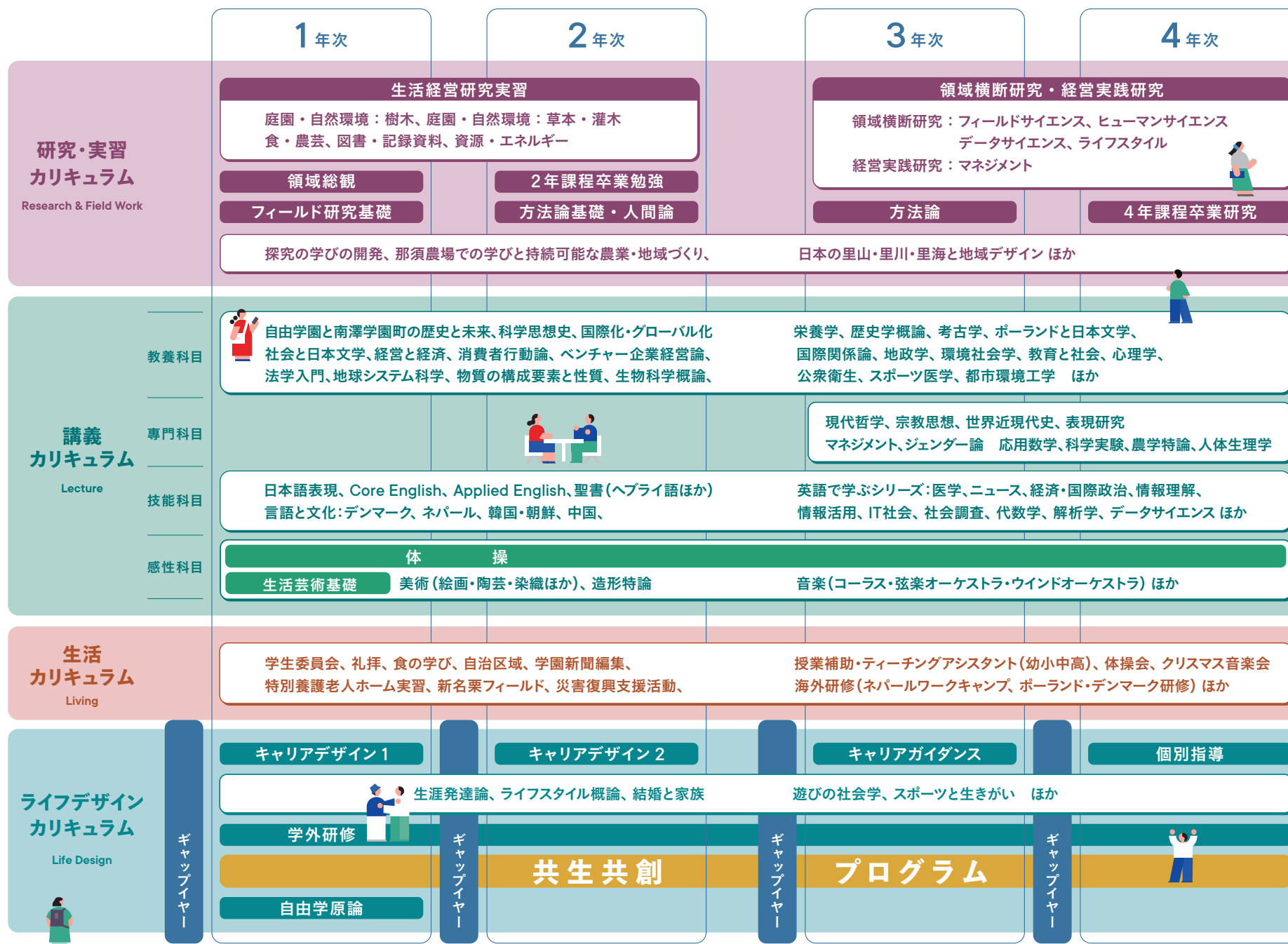
最高学部

社会活動 学外研修

社会

# Curriculum

## カリキュラム全体図



最高学部のリベラルアーツ・カリキュラムは、総合的に学問分野の基礎を学ぶ前期課程（1・2年次）と専門性を深める後期課程（3・4年次）に分かれています。それぞれ「研究・実習」「講義」「生活」「ライフデザイン」の4本の柱からなります。

「研究・実習」カリキュラムの中心には、1・2年次には「生活経営研究実習」が、

3・4年次には「領域横断研究」「経営実践研究」が置かれ、研究的に課題に取り組む力を磨きます。

「講義」カリキュラムにおいては文系・理系の枠組みを超えて、さまざまな学問分野の基礎を学びます。芸術性や身体性（音楽・美術・体操）を豊かに磨くことにも力を入れています。

何事も机上論観念論にとどめずに実行してゆきたい。  
受け取った有形無形、大小さまざまな知識を実行しよう、  
思いを実行しようとして刻苦するところに真の人格の成長がある。

羽仁 もと子

ギャップイヤー制度について

最高学部のギャップイヤー制度は、修学・就労・旅など自由な活動に在学中のいつでも1年間取り組むことができる制度です。入学前または在学中に、家庭や学園を離れて自主的に経験を重ねることで、その後の学びをより深めることを目的としています。制度利用者には学費の減免が適応されます。

「生活」カリキュラムは、生活実践と学問との有機的な結びつきを重視する最高学部の特長をよくあらわすものです。学校という身近な共同体の運営から、地域や社会への働きかけ、さらには海外を拠点とする取り組みへと活動範囲は広がります。異なる考えや文化にふれ、他者と協働する実践的な経験は、様々な違いを乗り越えてよりよい世界を創り

出すための実践力を養います。

これらを通じて、社会や世界、歴史、また自然を観る目を養い、その土台の上に、「自分はどうに生きていきたいのか」という人生の指針となる価値判断の軸を、じっくり形作っていきます。このような意味で最高学部の学びと生活のすべてが、「よりよき生き方」を目指す「ライフデザイン」の学びと言えます。



年齢を超えた、一生の仲間  
(生活経営研究実習)



シルクロードの道を辿る、ウズベキスタンにて



遊ぶ時も真剣です!

## 最高学部の学び方

# 自分自身という本物を創る力

## 松島 希実さん

最高学部4年(2025年度)  
香川県高松市出身

「研究者になりたい」  
「絵を仕事にしたい」  
「家族を大切にしたい」  
「ずっと山に登ってみたい」

最高学部に来う私たち学生の夢は、みんなバラバラです。分野も、規模も、視点も、解像度も人それぞれ。得意な科目も、好きなことも、興味も全く違います。隙あれば各々の世界に入ってしまう私たちが、同じ団体に属する1つの理由。それは、この場所で「自分を大切にしたい・自分を成長させたい」という共通する願いにあります。

私にとって最高学部は、ただ「勉強」する場所ではありませんでした。どんな人になりたいか、どんなものに憧れるか。自身に問いかけ続け生まれる成長への欲求を原動力に、「自分を育てる」4年間でした。



全身全霊で挑む卒業研究(駒ヶ根シルクミュージアム)

私は最高学部の環境に支えられて、その全てをつかって成長したと実感しています。この4年間は、かねてより興味を抱いていたカイコ・蚕糸業の世界に没頭。その広く深い研究生活の後押しとなったのが、自由学園および最高学部が持つ「本物を学ぶ」教育、そして「成長を促進する環境」でした。

最高学部は、全員が平等に学ぶ必須カリキュラムの内容を凌駕するほど、個人がしたいこと・学びたいことへのサポート体制に魅力があります。

むしろ、最高学部へ属する全ての人が、組織の一部として埋もれず、自分の「善い」と思う行いを循環することにより保たれている団体とも言えます。

全員が全員の成長を願い、個人の努力と成果に惜しみない喝采を送る。そんなあたたかい空気感があります。私はそのあたたかさや背中を押され、最高学部の中でも、赴いたその他の場所でも、血の通った多くの経験を重ねることができました。

「本物」を得る機会は、学生生活のあらゆる場面で見つけられます。全く異なる講義内

容が、思わぬところで繋がる瞬間。自身の研究へ、別分野からもたらされる新視点。共に課題を乗り越え見えてくる、先生・同級生の本音。テーマとした研究分野の最先端に携わる、人々の熱・自分とのつながり。

自分で見て・聞いて、現場に立って初めて、本当に「興味を持つ」ということ、「学びたい」ということの意味が真に迫ります。本物に触れる経験から、社会・世界に対する考え方だけでなく、「自分自身という本物」を創る力も得られたように思います。

どんな場所であれ、どんな方法であれ、努力を認め、成長を肯定し、次の進展を促す最高学部の環境があるからこそ、最高学部ではさらに一步踏み出したい・こうなりたい・やってみてみたい、と夢見る力が生まれます。私自身、挑戦と学びを繰り返し、どんな状況にも揺らぐことのない信念と、次のステージへ進むための十分な羽が、いつしか自分に備わったことを知りました。

私にとって、最高学部は、人生を歩むための土台と芯、すなわち「確固たる自分」を育てる学舎でした。興味も夢も人となりも、違いだらけの私たちが「成長」を想って集まる居場所。包まれるような安心感と、次なる一步を踏み出すエネルギー、双方を惜しみなく与えるこの環境を任せられ活かすのは、成長を願う私たち個人です。この場所で得た確かな自信を人生を照らす光として歩いていきます。



卒業式で4年課程代表として「卒業に際して」を読む



# Lecture Curriculum

# 講義

教養・専門・技能・感性

講義カリキュラムは、「教養」「専門」「技能」「感性」の4領域で構成されています。「教養」科目では幅広い学びを通じて、世界と人間、そして自分自身への理解を総合的に深めます。不透明な時代への洞察力を養う「新しい教養」と言えます。後期課程には、前期課程の土台の上にゼミ関連の「専門」科目が配置されています。



## データサイエンスI

(講師: 遠藤 敏喜・安齋 達彦)

統計のさまざまな概念を自分の言葉で説明すること、ExcelやPythonを用いてデータを整理しデータの特徴を数値化・可視化することができるようになることをめざします。データの一部に基づいて全体が示す性質を推定したり、全体に対して立てた仮説の妥当性を示したりすることを、実際のデータを用いて練習します。

# 1



## 日本の里山・里川・里海と地域デザイン

(講師: 吉川 慎平・小田 幸子)

少子高齢化と人口減少、空き家の増加、インフラの老朽化など、これからの地域・地方が直面する課題は深刻です。本講義では持続可能な社会のモデルとして注目される「里山」をキーワードに、地域再生や環境保全を実践する現場へのフィールドワークを通じ、これからの地域デザインを考える「素材」を集めます。

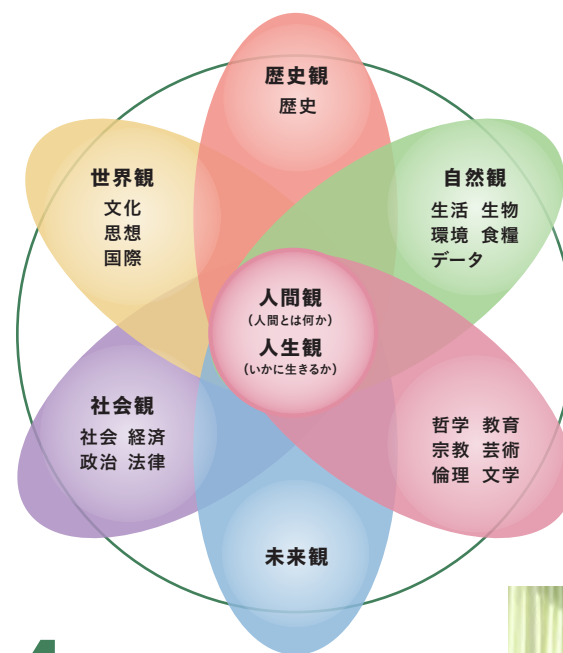


## 生涯発達論

(講師: 酒本 絵梨子・早野 曜子 ほか)

前半は乳幼児の発達について、実習を通じて子どもを観察し、遊びや環境、人との関わりが子どもの成長にどのように影響するかを学びます。後半は高齢者の健康を支える医療・福祉について、訪問医や地域包括センターの方から学び、高齢者施設で実習を体験します。

# 3



### リベラルアーツによる人間観・人生観の形成

最高学部のリベラルアーツ教育では、世界や社会、自然、歴史をどのように観るかという観方を学びます。そしてそれらの土台の上に、自由の主体である人間として「どのように生きるのか」という、人間観・人生観を養います。

# 4

## 英語で学ぶ経済・国際関係

(講師: 西崎 香)

ともすれば語学は「目的がはっきりしない学習」になりがちです。本講座は日本で使われている実用的な英語を学ぶという目標があります。経済やビジネスを語るときに英語を使う人が増えている中で、経済の基本を身に付けながら、そのコンセプトを英語でも学び、就活や仕事先でも発揮できるようになることをめざします。



# 5

## 自由学園と南沢学園町の歴史と未来

(講師: 荒 昌史)

学生自身が、自身が暮らすまちとの関係性を考え、自らの行動を通して、自分が属するコミュニティに貢献する契機をつくります。特に自由学園南沢キャンパスに隣接する自由学園が宅地開発した学園町、さらにひばりが丘団地をフィールドとして、その歴史と現在、未来を考察します。



## 9

## 生活芸術基礎

(講師:金井 知子・酒本 絵梨子 ほか)

芸術は私たちの生活や生き方にとのように関わっているでしょうか。それは特別な領域として切り離されるのではなく、日々の営みの中に現れ、その営みを通して世界を感じ、意味づけ、生きています。その意味で芸術は付加されるものではなく、生を成り立たせる基盤です。本講義では東洋・西洋の違いにも触れつつ、芸術観を問い直します。



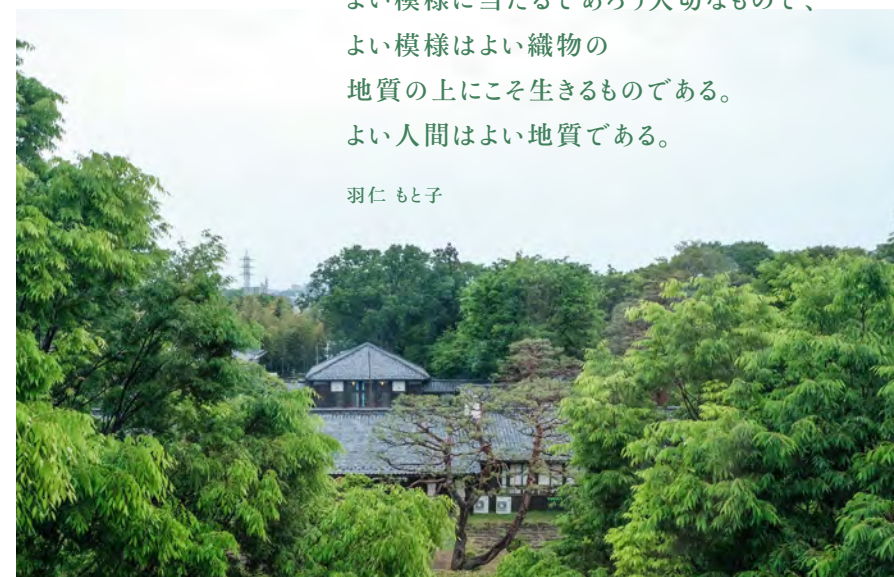
## 宗教思想 (講師:金 英男)

世界の混迷が深まる今、国際社会を正しく理解するためには、世界歴史の背後にあるさまざまな宗教についての正しい知識が、強く求められています。本講義では、世界宗教の代表的なものを取り上げ、国際社会を理解するのに必要な知識と、国際社会を担うための力を養います。

専門は織物でいえば、よい模様に当たるであろう大切なもので、よい模様はよい織物の地質の上にこそ生きるものである。よい人間はよい地質である。

羽仁 もと子

## 10

Lecture  
Curriculum  
講義

## 法学入門 I

(講師:南口 芙美)

常に社会の中にあり、不可欠な存在であるはずの「法」について、学校教育で学ぶ機会は多くありません。本講義では、法に関する基礎的な知識や全体像を学び、法的思考法的一端を獲得することで、自分を取り巻くさまざまな問題を法的な観点から考えられるようになってもらいたいです。

## 6

## 自由学原論

(講師:高橋 和也・室永 優子)

「自由」という語の多義性と重要性について、「学園の思想・歴史」、「キリスト教人間観・世界観」「日本の思想・文学」の3つの観点から考えることを通して、現代社会と自身の生き方をより深く捉え直す視点を養うことを目指します。ディスカッションの機会を多く設けます。



## 7



## 生物科学概論

(講師:蟻川 謙太郎)

生物とは何かを考える。細胞・遺伝・進化に続いて、人間の五感を中心に動物の体内で起きていることの仕組みを学びます。生物が生きるしくみの一端を知ることで、自らがどう生きるか判断する場面の一助となるでしょう。合わせて新しい知識を文章で伝える力をつけることを目指します。

## 8

11  
ライフスタイル概論

(講師:水嶋 敦)

社会構造の転換期にある日本において、これからのライフスタイルのあり方が問われています。ライフスタイルとは何か、どのように形成されるのか、時代や社会とどのようなかわりを持っているかを学び、持続性のある社会に向けてのライフスタイルのあり方を考えます。



# Life Studies Curriculum

日常生活・自治活動

# 生活

教育は交わりである。  
人間のよき交わりは、  
相互いに心をこめた  
よき生活のなかにある。

羽仁 もと子

生活カリキュラムは、「日常生活」「行事運営」「社会活動」の3領域にわたり、すべての活動において学生組織（委員会）を中心とする自治を重視しています。思いを共有しつつ、自分たちの生活を自分たちの手で創り出すことを大切にしています。

## 1年生 Aさん(寮生)の平日一日のスケジュール

6:30	起床
7:00	朝食(自炊)
8:20	登校
8:30~8:45	礼拝(自由参加)
8:50~10:30	1限授業
10:40~12:20	2限授業
12:25~12:40	昼食用意
12:40~13:10	昼食(食堂)
13:10~14:00	自治区域・集まり
14:05~15:45	3限授業
15:55~17:35	4限授業
17:45~18:00	夕食用意
18:00~18:30	夕食(食堂)
19:00~20:30	アルバイト
20:45	帰寮
23:00	就寝



授業の様子



昼食の盛り付けをする



「学園新聞」編集会議

Aさんは、月・木・金は1~4限、火・水は1~3限、土は1~2限の授業を履修しています。  
『学園新聞』編集員として毎週月曜日の昼食後に編集会議に出席します。

## 1年生 Bさんの春期一週間の時間割

※太字は該当学年の必修科目

	1限	2限	3限	4限
月	Core English	Applied English	美術(染織)	美術(染織)
火	自由学園と南澤学園町の歴史と未来	経済学概論	音楽(コーラス)	多言語で味わう聖書の文化
水	公衆衛生	体操	歴史学概論	
木	法学入門1	フィールド研究基礎	生活経営研究実習1A(樹木)	生活経営研究実習1A(樹木)
金	自由学原論	生涯発達論	生活経営研究実習1B(樹木)	生活経営研究実習1B(樹木)
土	日本語表現	キャリアデザイン1(春期4回)		

## 2年生 Cさんの春期一週間の時間割

※太字は該当学年の必修科目

	1限	2限	3限	4限
月	Core English	消費者行動論		
火	方法論基礎・人間論	代数学I	結婚と家族	多言語で味わう聖書の文化
水	ライフスタイル概論	体操	心理学	
木				
金	生活経営研究実習2A(草本)	生活経営研究実習2A(草本)	生活経営研究実習2B(草本)	生活経営研究実習2B(草本)
土		キャリアデザイン2(春期4回)	ビジネスコンピューティング	

学年が上がるに従って、その年度の履修単位数が減少していきます。  
1年は春期と秋期に分かれ、半期または1年を使って学外で学ぶ学生もいます。

## 寮生活について

キャンパスに隣接して、しののめ寮(男子寮)と光風寮(女子寮)があり、それぞれ1人部屋と2人部屋があります。平日の夕食が提供されます。週1回寮長を中心に集まりがあります。定員以内であれば希望者が入寮できます。海外からのTAも入寮し、日常生活の中で交流しています。



寮生全員で入寮式を行う

## 日常生活におけるプログラム

- 【学生委員会】：1年を3期間に分け、全員が交代で委員になります。
- 【毎朝の礼拝】：有志学生が集い、教師又は学生が交代で思いを語ります。
- 【食の学び】：昼食を皆でいただき、配膳・食器洗いを分担します。
- 【自治区域】：校舎内外を区分けして、清掃・修繕等を行います。
- 【学園新聞編集】：取材・原稿集め・編集レイアウト・入稿をします。



## 伊藤 ブンさん

【学部1年生(2025年度)】

初の外部生として最高学部へ入学した私がこの一年で得たのは、単なる知識の蓄積ではなく、「共に生き、ありのままの自分を表現する豊かさ」です。

掃除や学校運営を学生自らが担う日々の中で、ここが一つの共同体であることを痛感しました。少人数ゆえに先生や友人との距離も近く、やりたいことの片鱗をこぼすだけで皆が全力で力を貸してくれます。他者の未来がこれほど気になり、どんな道へ進むとしても応援したくなる関係は初めてでした。

互いを尊重し合える繋がりがあるからこそ、どんなことでも外に出して、形にしていきたいくなるのです。それを象徴するのが美術や音楽、「体操」の時間です。最も記憶に残る体操会は、優劣を競う体育祭とは根本から違い、何よりも楽しむことに重きが置かれます。一ヶ月間、強制されることなく自らと向き合い、全身を使った表現に専心しました。あいにくの雨の中行われた今年の本番ですが、初等部から最高学部までの全ての演技には神秘的な美しさがあり、感極まるものがありました。

他者と深く繋がり、評価を手放して自分を形にする。それが、この一年で見えてきた私の確かな学びです。



日本体操祭での最高学部子チームの演技発表

# What Is College Life Like?

1年生インタビュー



## 氏家 真唯さん

【学部1年生(2025年度)】

納得感をもって自分の人生を生きたいという思いから、自身を見極める時間を求めて最高学部への進学を決めました。入学から一年、幅広い分野の受講や那須農場での活動、インターン、毎日の礼拝参加などを経験し実感するのは、効率や正解を急がず、あえて生活に手間暇をかけることの豊かさです。

リベラルアーツという環境には、目的の外側にこそ豊かな学びがあると感じています。何気なく履修した講義で新たな興味を見つけたり、皆で食事を囲む生活では普段の会話から問いが生まれることも多くあり、こうした日々の余白や、特に学生が司会を担う毎朝の礼拝で語られる素直な言葉は、自身の関心の領域を多角的に広げ、同時に自分と向き合う機会となっています。

また少人数で、生活に根差した人間関係のある最高学部は、学外へ挑戦に出るときにも信頼できる土台となります。外で得た刺激や知見を学部で共有するような、個人の経験と共同体での対話を繰り返す学びの往復に、一人では完結できない学びの裏打ちを得られる最高学部ならではの醍醐味を感じています。



春休みの能登の学童クラブでの活動



## 福島 侑さん

【学部1年生(2025年度)】

最高学部で文系理系の枠を超えた様々な講義がある中で、講義を受けて面白いと感じるものは分野に関係なく様々でした。

1年間学んだ中で、講義を通じて自分の興味について考えました。これまで私は何に興味があるのか、どこに興味を持つのか、不明瞭でした。そんな中「興味」についての捉え方、考え方が変わったきっかけは、陶芸と情報の講義でした。二つの講義はもちろん扱う内容は違いますが、完成までのプロセスや手順に対する意味を考えることが共通していたと思います。

実際のモノに触れながら学ぶことによって自分の考え方に刺激をもらい、初めての経験から慣れた日常生活まで様々な物事の見方が変わりました。

自分自身身近なことには興味を持ちやすい中、これまで漠然とした分野には関心が薄かったですが、物事を自分が想像しやすいところまで分解して考えてみると関心のある要素もあると気づきました。そこから大切なのは自分が納得、理解できるまで考え続けることだと感じました。

幅広い分野の講義を受けることにより、関心を広げると同時に自分の興味を探るきっかけを得ることができました。



工芸室に並べられた陶芸の作品

“1年を振り返ってみて、  
学部の生活はどんな感じでしたか?”

一年を振り返り、世の中の問題や自分が関心のあることについて、幅広く学ぶことによって多角的な視点から見つめ、考えられるようになったと思います。好きなことばかり勉強するのも良いのですが、苦手な分野の講義を取ってみると、意外に好きな分野と繋がったりする瞬間が私は嬉しかったです。

一方的に講義を受けるのではなく、興味があれば共生共創プログラムを通して実践に行動を移し、自分の満足のいくまで、深めることもできます。それを、先生方や上級生をはじめとする周りの人が見守ってくれて、困ったことがあれば相談できる環境であるからこそ、自分のペースで安心して勉強をすることができました。

体操会や学部ならではの生活経営研究実習では、高校卒業後も改めて身体を動かす楽しさ、誰かと何かを達成する楽しさを実感しました。実習での剪定や体操も含め向いていないと思っていたことも、一人で頑張っていると辛いことも、誰かとやってみると好きになったり、まだ嫌い、できないと決めつけるには早いと気がつくことができた一年でした。



## 長谷有里子さん

【学部1年生(2025年度)】



地域の人たちの交流を目的に開いた種と苗のシェア会

# Research Activities in Field Studies

## 生活経営研究実習

「研究・実習」カリキュラムは、「生活」を土台に様々なテーマを、協働的な研究・実習として追求します。学問の専門性を活かしつつ、学際的・相互補完的なアプローチを大切にしています。

実習カリキュラムの中心が前期課程1・2年次の「生活経営研究実習」です。学園キャンパスと東久留米地域をフィールドに、「環境・食と農・資源・知と公共空間」の側面から、実習を通して地域や世界の課題とその解決方法について探究します。10万平米のキャンパスの自然環境や創立以来蓄積された学内記録資料の管理運営、また地域社会への働きかけを学生自身がグループで担い、実践的・協働的に持続可能なくらし、地域、世界を創り出すための力を磨きます。



生活経営研究実習

## 庭園・自然環境

Landscape Gardening and Natural Environment



起伏に富み豊かな自然環境に恵まれた10万平米の学園の庭の草木の維持管理を通じて、自然界の繊細な生態系の仕組み（＝エコシステム）への理解を深め、その保全のために必要な知識と技術の基本を身に着けます。

樹木グループは都市化し消滅している武蔵野の自然環境を保全する活動を続けています。学園内約4000本の樹木を見回り、四季折々の樹々の手入れ、果樹の収穫、枝のチップ化、竹柵設置など、循環的な環境整備に取り組んでいます。

草本・灌木グループは、在来植物の保護の視点から学園内の植物の手入れ、観察・記録を半世紀以上継続しています。また、東久留米市や市民団体とも連携し、近隣の水源林の継続的観察や緑地保全にも取り組み、市の環境フェスティバルの運営にも関わっています。

## Interview



樹木グループ  
片山 いくみさん

【学部2年生(2025年度)】

樹木グループでの活動を通して、自然に対する意識が大きく変わりました。季節に応じてウメやタケノコを収穫し、剪定を行い、次の季節に向けて準備を進めました。これまで季節の食材や花を深く意識したことはありませんでしたが、自然の循環や背景にも目を向け、「もっと知りたい」と感じるようになりました。また技術を習得するとともに、自ら考え行動し、協力する大切さも同時に学びました。



農芸

## 生活経営研究実習 食・農芸

Agroecology



食

循環、共生、多様性を基本とする自然共生・循環型農業の実践を通して、日常生活と食、農とのつながりを学びます。花や野菜を育て、食として、また装飾として学校生活に活かす経験を重ねることで、暮らしの中にある自然の恵みや、人の手がつくる豊かさへの理解を深め、安心・安全で持続可能な「いのちと食・農」の全体システム（フードシステム）の実現への道を探ります。

学校の圃場の管理・運営、作物や草花の栽培・収穫・種取りを基礎に、花の装飾的な活用による空間づくり、ジャムや保存食づくり、新しい商品の企画・開発、カフェ運営など、活動は多方面に広がります。また、初等部から高等部までの「食と農」の学びを支え、育てることを通して豊かな暮らしを考える学びの循環を生み出しています。

## Interview



農芸グループ

安部 葵琉さん

【学部2年生(2025年度)】

最高学部で有機農業を学び、野菜を育てる営みが多様な分野の繋がりによって成り立つことを知り、その面白さを感じました。雑草や害虫への対処も手作業か農薬かのどちらかしかないと考えていましたが、草マルチや混作・輪作などの方法、さらにアグロエコロジーや景観整備の視点を学び、多面的に捉える重要性を実感しています。

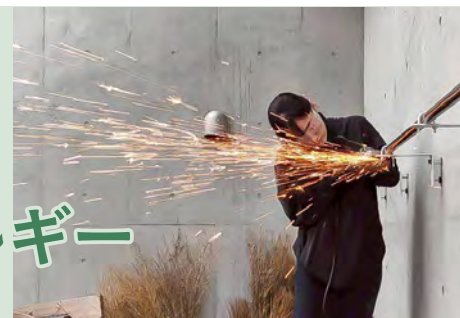
※草マルチ…雑草を刈草で抑えることで保水性の向上、雑草の抑制、地蜘蛛の住処となる天敵利用、地表温度の緩和などの効果がある。

安心して持続可能な  
フードシステムのあり方を探る

生活経営研究実習

## 資源・エネルギー

Resources and Energy



学園で使われている電気・水・燃料・物資の流れを見える化し、資源とエネルギーの持続可能な利用法を実践的に探ります。学校という一つの生活圏をフィールドに、エネルギー利用の実態把握、無駄の削減、再生可能エネルギーの活用、資源循環の仕組みづくりに取り組み、限りある資源の中で成り立つ持続可能な暮らしと社会の在り方を探究します。

具体的には、電力・水使用量や廃棄物の調査・記録・分析を行い、省エネルギーや資源削減につながる改善案を立案・実践します。これら身近な取り組みと共に、災害時の対応や再生可能エネルギー導入の可能性などの課題にもアプローチします。

また電子回路やプログラミング、CADによる製図法、金属加工等工作技術に関する知識や技術を養い、施設メンテナンスや修理を行い、大量生産・大量消費型社会の課題を考えます。学園内での取り組みを、地域や社会全体の課題と結びつけて捉え、持続可能な社会への転換に向けた具体的な行動を提案・発信していきます。

限りある資源・エネルギーと  
暮らしの在り方を考える

生活経営研究実習

## 図書・記録資料

Library and Archives



学園の図書館運営や記録資料の管理に学生自身が関わることを通して、知識や情報がどのように収集・整理・保存され、次世代へと受け継がれていくのかを学びます。図書館を単なる「本の保管場所」ではなく、学びを支え、対話を生み、社会に開かれた公共的空間として捉え、その持続的な運営の在り方を探究します。

日常的な図書館運営に携わるとともに、学園の歴史資料や教育実践の記録、研究成果などの整理・記録・デジタル化を行い、学内外に共有する方法を検討します。これらの活動を通して、情報の信頼性、記録の重要性、アーカイブの役割について理解を深めます。

さらに、展示企画や読書推進活動、テーマ別ブックフェア、学内イベントとの連携などを通じて、図書館を人と人、知と知が出会う「知のインフラ」として活性化させ、情報化社会における知識の継承、文化の保存、表現の自由、公共性といった現代的課題のあり方を考えていきます。

知の蓄積と共有を通じ、  
公共的空間をつくる

# Community Service and Off-campus Training

## 社会活動・海外研修

リベラルアーツ教育は一般的に幅広い知識を学び、「自分の頭で考える力」を養うことを重視しますが、最高学部のリベラルアーツ教育は活動範囲を地域から世界へと広げ、知識と実践をつなぎ、「自分の頭で考える力、そして行動する力」を養うところに一つの特長があります。



最高学部棟屋上の気象観測システムは地域にとっての重要な観測地点

## 地域・社会に広がる学びとは？

自由学園最高学部では、東久留米市や周辺地域と連携しながら、自然環境の保護や社会課題の解決に取り組んでいます。

学園を地域の方々に開き、キャンパスの野生植物を学生が紹介する自然観察会は30年以上続くもので、地域との信頼関係を築く機会にもなっています。また毎年「環境月間」の6月に開催される東久留米市環境フェスティバルには2003年から出展。近年は、最高学部生がポスター・チラシのデザインを担当しています。

学内を流れる立野川の水源地でもある向山緑地では学生による自然誌的調査が継続され、東久留米市の「向山緑地若返り事業」においても市民グループと協働し、研究活動を行ってきました。

最高学部の学生は東久留米キャンパス以外の3か所の自由学園フィールドでも研究活動を行っています。栃木県那須塩原市の那須農場

の圃場では2022年度から、不耕起栽培による環境再生型有機農業に取り組んでいます。

また那須農場及び埼玉県飯能市名栗植林地、三重県紀北町海山植林地のそれぞれで、「水文・気象観測室」の学生が気象観測や河川調査を行っています。

災害復興支援にも力を入れており、東日本大震災の復興支援では50回を超えて現地での活動。現在は能登半島地震の被災地で学生がボランティア活動を行っています。



エコプロ展自由学園ブースで環境についての取組を展示



ネパールワークキャンプ

## 国際交流プログラムとは？

最高学部では、「自由学園から世界へ、世界の課題をキャンパスへ」をモットーに、海外へ出て自己の視野を広げ、学ぶことを推進しています。

デンマークのオレロップ体育アカデミーとは90年以上交流があります。2016年からは半年間の授業料・滞在費給付奨学金制度が始まり、20名の学生が貴重な体験を積み重ねています。またポーランドのポメラニアン大学とも2016年に学校間協定が締結され、これまでに9回相互交流が実施されました。ポーランド研修ではアウシュビッツやクラコフを訪問し、ポーランドの歴史や文化を学んでいます。またヨーロッパの教育交流プログラム「エラスムス+」の奨学金制度により2023年に1名、ポメラニアン大学へ留学しました。2028年まで同奨学金での留学枠が与えられています。さらに、地球課題解決に向け、ネパールで30年余りにわたり植林活動を行い、現地の人と協力しながら地域との交流を築いてきました。

2025年度からは、現地大学生との交流も含めた新たなプログラムが始まりました。こうした学校のプログラム以外にも学外研修制度やギャップイヤーを利用した個人の留学も推奨しています。

その他、国内でも、イギリスからの英語ティーチングアシスタントやデンマークからの体操指導者が最高学部の寮に滞在し、学内での交流も行われています。

これらのプログラムは、世界に目を向け、異文化理解を深めながら成長できる貴重な機会になっています。



ポーランド研修



イギリスからのTAと食卓を囲む



オレロップ体育アカデミー

「本物」を知り  
自分で考えること  
から始まる。



友人と初めて参加したマーチング。  
この日は、デンマークの女性史の講演を聞き、  
ジェンダーやフェミニズムへの知見を深め始めた



樹木グループで  
ウメの手入れ作業中



森林管理の機関での集合写真

国際交流プログラム・ギャップイヤー体験

## 世界を視て、心と学びを拓ける

山下 真生 さん

最高学部3年(2025年度)  
埼玉県比企郡出身



ネパールの小学校での植樹を子どもたちと

リベラルアーツとは何だろうか、しばしば自分に問かける事があります。学部2年次に参加したネパール植林ワークキャンプを通して、リベラルアーツとは「世界を様々な観点から視られるようになる事と、その実践」と私の中で定義されました。ネパールは、空港に足を踏み入れた瞬間からまさに別世界。ただ、そこで見る物事が「別世界」という表面的な言葉で片付けられないと気づきました。例えば、山中で森が削られ土壌にそのままコンクリートが敷かれているのを見た際には、都市環境工学を思い出しました。アルカリ成分が土壌や池に流れ生態系に影響する事、森の水脈を無視した樹木の伐採による山崩れのリスクを感じたのです。これは生活経営研究実習・樹木グループでの関心から拓げた視点でした。また、ネパールの森林管理を担当する行政機関では、近年、森林管理の担い手と

なる若者が出稼ぎのため外国へ流出している事態が問題であると伺いました。技能実習生などとして多くのネパール人が在留しているというニュースの対には、若者の流出や担い手不足といった社会問題に繋がっていたのです。

リベラルアーツの学びは、溢れる「情報」ではなく「本物」を見て自分の人生や社会、世界を視る観点を増やしていく事だと思います。視点が多くなれば、世界の情勢の見方も、自分自身の悩みの捉え方も転換できるのです。

学部3年秋から1年間ギャップイヤーを利用し、教養や民主主義を学ぶデンマークのフォルケホイスコーレに留学しています。そこでは、それまでの視点から日々の学びを拓げる事もあれば、自身の知的好奇心の赴くままに世界を視る、隣人から学ぶ事ができていると感じます。昨今の世界情勢の中で、性別も国籍も、バックグラウンドも多種多様な人々が生活する環境で、捉え方の違いから生まれる個々の葛藤は少なくありません。ある学生が貼ったパレスチナに関する集会のポスターを見たイスラエル人学生が不快感を感じ、彼女のためにポスターは剥がされるという事がありました。民主主義を地でいく学校なので、毎週学生による全員参加の議会が開かれ、現状の見

直しや、新たなものを取り入れるかなどを対話と選挙で決めます。一方で、1人が不快感を抱く事や、一見すると個人の問題と捉えられがちな事を全体の問題として共有し、話し合います。世代間や、文化圏の違いによる意見の対立は、より大きく、身近になっていると感じます。それに対し、寛容にも批判的にも受け止め考える事が、リベラルアーツの本質である今回の留学で実感しました。

法学を知り、ニュースの見方に今まで無かった視点が生まれる。哲学を知り、自分と家族との葛藤を乗り越えられる。日本から離れ、日本での慣習は他の国の特殊だと知る。私の人生の決定も、社会をよりよくするための行動も「情報」ではなく、「本物」を知り自分で考えることから始まる。そこから豊かになっていく実感が、確かにあります。



ヴィーガンの人も食べられる餃子作り中

# Co-Creation Sustainable Society Program

## 共生共創プログラム



わたしたちの心が知っている  
もつとうつくしい世界は実現できる。

(チャールズ・アイゼンシュタイン)

2025年度より、「ライフデザインカリキュラム」の新たな取り組みとして、よりよい社会の実現を目指して活動する企業やNPOと学生一人ひとりが学外研修としてつながる、「共生共創プログラム」がスタートしました。このプログラムの魅力は、自分自身の関心や問いを出発点に、研修先や期間など、学びのプロセスそのものを自らデザインし、「自分らしい生き方」や「よりよい社会のあり方」を主体的に探求できる点にあります。

日本各地へと飛び出した学生たちは多様な現場での経験を通して、志と実践力を育てています。卒業研究でプログラムを活用した4年生たちは、自らの問題意識を実践と結びつけ、学問的探究へと昇華させ、さらにその経験は卒業後の進路選択にも生かされました。年間で最長6か月の研修が可能。その経験は単位認定されます。リアルな社会と出会い、自ら問い、行動し、未来を描くプログラムです。年3回行われる共生共創フォーラムは、学生の視野を広げる機会となっています。

学校それ自身を活きた社会として、より大きな活きた社会と有機的に連なることによって、最良の教科書である世界を読み取り、直接その教育を受け得る機会を、すべての学生たちに。

羽仁 吉一



デフリンピック競技大会審判派遣



森づくり研修(岐阜県郡上市)



メノビレッジ長沼(北海道夕張市)

### 【研修先一覧】

- NPO法人新得共働学舎(北海道)
- NPO法人寧楽共働学舎(北海道)
- 大地×暮らし研究所(北海道)
- 八戸クリニック街かどミュージアム(青森)
- きら星株式会社(新潟)
- NPO法人信州共働学舎(長野)
- NPO法人日本ブラインドサッカー協会(東京)
- 一般社団法人エシカル協会(東京)
- 株式会社フィールドプロ(東京)
- 株式会社UPDATER(東京)
- 奈良山園(東京)
- NPO法人 ARUN Seed(東京)
- NPO法人ピッコラレー(東京)
- 株式会社HITOTOWA(東京)
- NPO法人フリースペースたまりば(神奈川)
- パタゴニア日本支社(神奈川)
- 株式会社飯尾醸造(京都)
- 速水林業(三重)
- AMAホールディングス株式会社(島根)
- 株式会社CNC(島根)
- 一般財団法人水俣病センター相思社(熊本)

### 01 事前

方法論基礎・人間論  
フィールド研究基礎  
ネイバーフッドデザイン  
キャリアデザイン  
共生共創フォーラム

### 02 課題発見

探求の学び  
生活経営研究実習  
領域横断研究  
経営実践研究

### 03 体験

共生共創プログラム

### 04 振り返り

レポート作成  
事後アンケート  
報告会

やりたいことを  
やろう。



## 共生共創プログラム体験

# つながりから生まれる地域の力

## 伊藤 碧菜さん

最高学部4年(2025年度)  
千葉県松戸市出身



編み物の会で、初めての編み物に挑戦

「やらない後悔より、やって大成功だ」と自分に言い聞かせながら、何度震える手で応募フォームを送っただろう。知らない場所で知らない人に囲まれ、その人たちと仲良くなるなんて、自分にできるとは思えなかった。しかし学生最後の2年間を振り返ると、驚くほどの場所に訪れ、知らない人と出会い、語り合うことができた。

新潟での「おてつたび」や「地域おこし協力隊」をきっかけに地域づくりの魅力にのめり込んでいった私の活動は、石川、愛媛、埼玉、茨城、神奈川へと広がり、「地域・コミュニティへの愛着をつくるための『場』が持つ力」という卒業研究へと発展した。ちょうどこのタイミングで始まったのが共生共創プログラムだった。

最高学部が連携する団体の一つ、コミュニティナースカンパニー（以下CNC）は、「人とつながり、まちを元気にする」という理念のもと、

卒業研究「地域・コミュニティへの愛着をつくるための『場』が持つ力」で関わった、筑波のコミュニティづくりスタッフの方々と



コミュニティサポーター養成講座の様子



能美CNCのみなさんと!

資格や肩書きではなく「在り方」として地域に関わり、可能性ややりたいことを引き出す取り組みとのこと。その実態を体感すべく現場に飛び込んだ。

CNCの活動は全国で展開されているが、私が参加した能美市のCNCは市からの委託を受け、「スマホカフェ」を市内各地の公民館で開催していた。参加にあたっての説明は、「スマホを触っているのは最初だけだよ」。この企画はスマホ「教室」でないとところがポイントで、先生と生徒という構図にならず、互いに教え合う関係になるように設計されていた。関係がフラットな分、雰囲気も固くならず、いつの間にかスマホを尻目に雑談が始まっていた。

雑談の中で、ふと誰かから「昔はこんなことをやっていた」「こういうことに興味がある」という話が出てくる。いいですね、それ、是非ともやってみませんか。でも、できるかしら。できますよ、私、一緒にやってみたいです。地域の伝統だった花笠音頭をみんなで踊る。編み物好きが集まって、みんなで大きな作品をつくる。ハイキングに行く。そばを打ってみる。一人では難しいことも、みんなとだったらできる。できる「みんな」がいて、「みんな」と動

き出す。その瞬間に立ち会うたび、私はこの「場」が持つ力を実感した。

「ここに来た頃は杖をついていた」と話す高齢の女性が、姿勢よく花笠音頭を教えている姿には驚くばかりだった。気持ちが前向きであることは、心だけでなく身体をも健康にする。能美市で行われていることは「肯定し、共に楽しむ」という至ってシンプルなものだった。しかしその連鎖が大きな力となるのだ。特別な資源がなくても、たった一人の関わりからでも地域を元気にすることができるのだと、私は肌で感じた。

この2年間、やりたいことをやっている大人と沢山会って、私自身も真剣に自分の人生と向き合うことができたように思う。

4月から私は新潟の岩室温泉で働く。やりたいことをやろう。若い自分に向き合い、真摯に言葉をくれた全ての大切な大人たちに報いるためにも。そうして私自身も軽やかに人生を生きる人間の一人になれば幸いだ。



花笠音頭練習の休憩時間。  
花笠もみなさんの手作り。

# Cross-section Research

# Practical Research

## 領域横断研究・経営実践研究

後期課程3・4年次の「研究・実習」カリキュラムでは、各自の問題意識に応じて、「領域横断研究コース」(フィールドサイエンス、ヒューマンサイエンス、データサイエンス、ライフスタイル)と「経営実践研究コース」(マネジメント)の2コース5つのゼミナールのいずれかを選択し、2年間研究活動を行います。「領域横断研究コース」は各ゼミとも専門領域の異なる複数の教員で担当するため、専門性を養いつつ、専門の枠を超えた創造的な視点や探究力を養うことができます。「経営実践研究コース」は、よりよい社会を構想し、人を大切にする経営を目指す次世代経営者としての資質を養います。生活経営研究実習と同様に研究活動においても学生の協働性を重視しています。

ゼミナール

## フィールドサイエンス

Field Science



フィールド調査

## フィールドから社会を読み解き、 未来をつくる

地域の自然・地理・環境・歴史・文化・産業・インフラ・コミュニティなどを対象に、実地調査や資料収集など多様なフィールドワークに取り組みます。本物に触れて得た情報を分析し、より良い地域や社会づくりにつながる提案を行い、可能な範囲で実践まで進めます。学内外の多様な機関と連携しながら、社会課題の発見から解決へ向かう実践力と総合力を養います。

ゼミナール

## ヒューマンサイエンス

Human Science



戦跡地への訪問

## 人間・社会を多角的に問い直す 「考え方のアップデート」

これまでの社会通念を前提にせず、自らの思考や価値観を問い直す姿勢を身につけます。社会学・ジェンダー論・文学・教育学・身体論・現代文化論など幅広い人文社会系の学問を土台に、人間・社会とは何かを多角的に探究します。複数の視点から考える力を養い、これまでの経験や学びが自分の中でつながる感覚を得ながら、新しい気づきへと深めていきます。

セミナー

## データサイエンス



3dデータの作成

Data Science

見えないものを見えるように、  
そしてより見やすいものに

周囲にあふれる事象をつぶさに観察し、分析し、自分なりの知を作り上げることに取り組みます。数学的モデルを構築して現実問題にアプローチすること、人類が創出してきた文化の蓄積を活用するデジタルアーカイブス構築、知を表現・発信するためのアースティックデザインなど多岐にわたって、未知なる発想を通して新たな世界を切り拓いていきます。

セミナー

## ライフスタイル



異文化の体験

Lifestyle

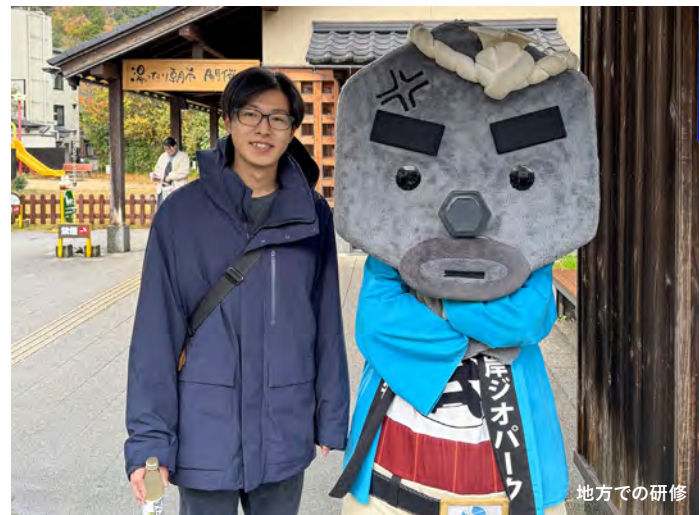
自らの生活を見つめ、  
気づいたことを社会へとひろげる

自由学園の教育理念には「生活即教育」が示すように「生活」が含まれます。これからのライフスタイルはどのようにあるべきかについて「持続性ある社会を作る—Quality of Lifeを考える」をテーマに、自分の生活、自分たちの生活の中から課題を発見し、それを周囲の人や社会に広げ、よりよい社会・生活に向けた提案をすることを目指します。

セミナー

## マネジメント

Management



地方での研修

社会への新たな構想をもって、  
人を大切にする経営をめざす

人を大切にしながら、社会への新たな構想を持ち、事業革新に挑戦する次世代経営者を育てることをめざし、企業経営および起業をする人、社会貢献活動（NPO）を運営できる人など、将来の経営者になるための学びを行います。企業や団体の事例を研究し思考力を養うとともに、学外研修を必須として実践的な思考を高め経験を積むことを大切にしています。



本学のゼミでの研究活動は、自分の発見した問いを学際的かつ複合的に深める自分自身の学びであり、リベラルアーツを実践に活かす場でもある。誰もが壁にぶつかるが、豊富な研究経験を有する複数の教員たちが、乗り越える策を一緒に探る。ときにはゼミの仲間もその役割を担う。ゼミでの不断の努力と他者との協同は、卒業後の長い人生を豊かにする礎となる。卒業生には、さらなる専門性をもって社会に貢献すべく大学院へと進学する者も一定数いる。起業家から芸術家まで多岐に亘る分野で活躍する卒業生の生き様のひとつは自由学園における出藍の誉れと言えよう。

**自身の学びを  
人生の礎に**

**遠藤 敏喜**  
【教授・博士(理学)】

もっと

「領域横断研究」「経営実践研究」  
について知りたい方へ

こちらのQRコードから、「自由学園最高学部後期課程・ゼミナールの紹介」冊子をご覧ください。





# Life Design Curriculum

## ライフデザイン

自由学園最高学部は、生涯にわたって自分らしく生きる力を育み、卒業後も学生一人ひとりの人生に寄り添います。

# Try it and grow in confidence!

「やってみた」経験の中に、自分らしい未来が見つかる。最高学部の卒業生は、社会から高く評価されています。



キャリア支援室から

## “やってみた”が、自信に変わる!

高木 麗 キャリア支援室長

【キャリアデザイン、キャリアガイダンス担当】



下級生を導いた山登り遠足。教師からの厳しい言葉で、責任の重さと自由学園の教育の本質に気づいた—高木さんにとって、忘れられない学びの原点。

自由学園最高学部で学ぶ人は、「やりたいこと」だけでなく「やりたくないこと」や「やらねばならないこと」に挑戦することにも価値を見出せると思います。

スタンフォード大学クランボルト教授の「計画的偶発性理論」によると、成功したビジネスパーソンのうち18歳時点で考えていた職業に就いた人はわずか2%。変化の激しい現代では、やりたいことだけで将来を決めるのは難しく、未知の経験が自分の可能性を広げられるのです。

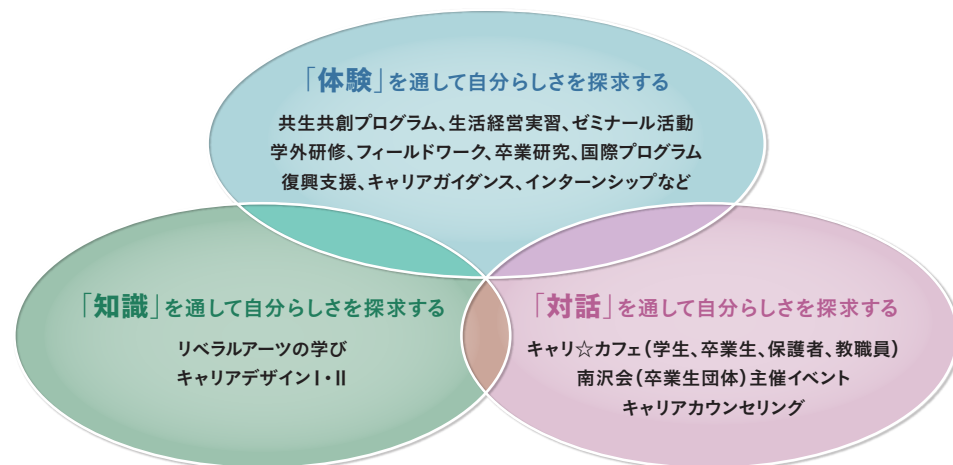
最高学部では、自分が「やりたいこと」に挑戦する環境と、他者のために「やらねばならないこと」に取り組む機会が用意されています。経験を通じて、新たな「やりたいこと」に出会うことも少なくありません。



卒業生を招いての保護者会主催のイベント

## 「自分らしさ」を探求して自己理解を深める

【ライフデザインの体系図】



私の長男は、生活経営研究実習が希望していたグループにならず不本意な結果に。「嫌だけれどやらない訳にはいかない、それなら嫌なことを少なくすれば良い。」と、最も嫌だと感じていた非効率的な作業を自動化することに取り組みました。この経験が就活で高評価を得て、他者からみても価値ある経験を積めたことに気付いたそうです。また経験を通して自分の強みへの理解を深めたことによって、18歳の時には考えもしなかったコンサルタントの仕事に就き、充実した日々を送っています。

このような経験は特別なことではありません。保護者会主催イベントにゲスト参加した卒業生たちは、「最高学部に進学して良かったと感じるタイミングは人それぞれ。でも必ずそう思える瞬間がくる。」と異口同音に力強く

語ってくれました。経験に自信がある人は、やりたいこと以外にも積極的に挑戦することができます。最高学部の卒業生は学歴フィルターを超えて企業から高く評価されています。

自由学園最高学部は、経験を通して自己理解を深め、「自分らしい生き方」を描ける場所です。キャリア支援室は、その未来の実現を全力で支援します。

もっと

卒業生が社会でどのような活躍をしているか知りたい方へ



こちらのQRコードから、「いしかた探訪記」冊子をご覧ください。



ライフデザインの授業の様子

## Interview

4年生(2025年度)の言葉 I

# 「いのちの経営」を 実社会で体現

増本 圭佑 さん

【マネジメントゼミ→立教大学大学院】

私が将来歩むべき道を見出すまでの過程は、リベラルアーツ教育を掲げる最高学部での多様な経験と、成長の連続でした。入学当初の私は、自身の興味を広げるべく必修科目を中心に幅広く学び、部活動やアルバイトなど学内外の活動に励んでいました。信頼する先輩に支えられ充実した日々を過ごしていましたが、一方で、失敗を恐れて新たな一歩を踏み出すことに慎重すぎる自分を課題として感じていました。

転機となったのは3年次で、父が経営者であったことから経営学に興味を持ち、マネジメントゼミに所属したことです。この時期に自身の殻を破るべく、ギャップイヤーを取得してデンマークのオレロップ体育アカデミーへの留学を決意しました。

異国の地で多様な背景を持つ人々との対話に身を投じる日々の中では、自らの考えを伝える力が求められました。体操の技術向上だけでなく、



タンブリングの最後の授業を終えて(オレロップにて)



新たな決意を胸に、大学院での学びがはじまった

多くの人との関わりを通じて価値観を広げ、将来に欠かせないと考えていた語学力も、自らの手で掴み取ることができました。

帰国後は卒業論文の執筆を進め、会社を成長させるための転換期に必要な鍵を研究しました。その過程で、理論を実践へと昇華させる難しさと重要性を改めて痛感し、経営に関する知識をより深く吸収するべく大学院進学を選択しました。受験という新たな挑戦に多くの時間を費やす中で支えとなったのは、最高学部の環境でした。専門分野のみに偏らず、幅広く科目の基礎を学ぶ中で真の興味を見つけられたこと、そして先生方が学生一人ひとりの挑戦に寄り添い、二人三脚で挑戦をサポートしてくださったからこそ、今の私があります。

4月からは、社会人大学院という新たな環境での挑戦が始まります。多くの社会人経験を持つ学生や経営者との議論を重ねる中で、

知識や知見、経験を積み、自身の視野をさらに広げたいと考えています。最高学部が掲げる「いのちの経営」を実社会で体現できる経営者を目指して、これからも歩みを止めることなく精進していく決意です。



卒業の門出を先生と先輩に祝われた大切な写真

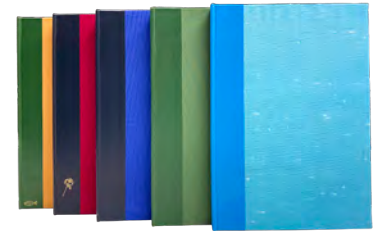
## Interview

4年生(2025年度)の言葉 II

# 学部での経験が 将来に繋がる

山澤 遥乃 さん

【図書・記録資料グループ→三省堂印刷株式会社】



製本実習で制作した本

最高学部に進学することを決めたのは、自分はどう生きていけばよいのかという、なんとも言えぬ不安からでした。その答えを求めて始まった学部生活。最も興味を惹かれたのは「生活経営研究実習」でした。私は図書・記録資料グループに所属決めました。本好きな私にとって実習は楽しく、中でも、自分の手で本を作る製本実習は特に印象に残りました。普段自分が手に取っている本がどのような仕組みであったのかを知り、好きな色の紙を組み合わせると綴じの本を作るなど、非常に興味深い経験でした。

一方、学部在学中、私は戦争に関する小さな本を2冊まとめることができました。1冊目は高校の探求をもとに、学徒動員中に空襲で亡くなった女子部卒業生について漫画と文でまとめた『川田文子さんのこと』。図書館資料室や美術の先生方の応援により出版に至りました。2冊目はそこから発展して、後期課程の卒業研究「次世代による戦争体験継承についての考察」として祖父の戦争体験を聞き取り漫画化した『おじいちゃんの戦争』です。



三省堂印刷での仕事の様子



卒業研究「次世代による戦争体験継承についての考察」でのインタビュー

この2冊の出版は思いがけず新聞等でも紹介していただくことになりました。

就職を考えていたときに、キャリア支援室の高木さんから「キリスト教大学ということでは三省堂印刷から求人が来ている」と紹介していただきました。三省堂印刷は、辞書などの薄紙印刷と製本に力を入れている会社です。自由学園に入学した新入生に渡される聖書も、ここで印刷・製本されていることを知り、「ここで働いてみたい」という強い思いが生まれました。

面接の日、私は自分が製本した本を携えて会場に向かいました。自分の手で本を作ったことがあるという経験に、会社の方々は深く興味を示してくださいました。そして翌日、私は採用内定通知をいただきました。4月からは「製本部」に所属します。

楽しかった最高学部での経験や私の中の興味・関心が、点と点が繋がるように自分の将来に繋がったことは、大きな喜びです。

# INVITATION

## 最高学部への招待状

教育の目的は何ぞときく人があれば、真の自由人をつくりだすところ、  
真の教育の目的であると、私は熱心に主張したい。

羽仁 もと子

### 自主独創 共生共創

「自分らしく生きたい」「よりよい世界をつくりたい」

それは誰もが心の奥に抱く願いです。

自由学園最高学部は、その願いを本気で育てる学びの共同体です。

既存の教育の枠にとらわれず、一人ひとりを大切に、

自らの人生を切り拓く力を育てています。

創立者羽仁吉一先生は

「天地を經典とし、生活を教材とし、社会を教室とする新しい学問一。

自主独創<sup>たつと</sup>を尚ぶ教育の正<sup>おこ</sup>に興<sup>きた</sup>り来るべき時は今である」

との理念を掲げました。最高学部は今も、この理念を受け継ぎ、

自由学園の人間教育を進化させ続けています。

「自主独創」は、思うままに思うことをするというものではありません。

聖書には「あなたは<sup>あたい</sup>価値高く貴い」（イザヤ書43章4節）

という言葉がありますが、私たち一人ひとりにはかけがえのない存在であり、

自分自身の人生を生きる唯一無二の主体であるという考えに根ざしています。

最高学部では、自分の内なる願いや問いに誠実に向き合い、

その声に耳を傾ける時間を大切にしています。

学生たちは互いに支え合いながら、自らの道を耕し、

それぞれの人生の旅を歩んでいきます。



新緑に包まれた最高学部棟を  
背に立つ、高橋和也学部長

最高学部の学びは教室の中だけにとどまりません。

講義に加え、共同生活やフィールドワーク、社会活動などを通して、

実社会の中で思考力と実践力を磨いていきます。

自然、生活、社会の現実に触れながら、

自分を知り、他者を知り、世界との関わりを学ぶ。

そして多様な人々と共に生き、

新しい価値を創り出す「共生共創」社会を目指します。

2025年度よりこうした理念を実現する「共生共創プログラム」が動き始めています。

様々な学びと経験を重ねながら、一人ひとりが自分なりの生き方の軸を築き、

生涯を通じて自分を創り、よりよい社会を創る。

最高学部での学びはその土台となる確かな力を養います。

自分と世界にじっくり深く向き合い、より美しい未来を共に築きたい。

自由学園最高学部は、そんなあなたを心から歓迎します。

今回の学部紹介冊子の制作には、

現学部3年生の安部葵琉さんが企画段階からスタッフとして参加し、

現役学生の視点から多くの意見を寄せてくれました。

特に大きく反映されたのは、学生自身の実感のこもった言葉を多く紹介するという点です。

文章を寄せた学生だけでなく、多くの学生たちがミーティングに参加し、

それぞれが感じる学部の魅力を語ってくれました。

この冊子から、ぜひその思いと熱量を感じ取っていただければ幸いです。



| Address | 〒203-8521 東京都東久留米市学園町1-8-15

| Phone | 042-422-3111 (代表) 042-422-4389 (直通)

| Web | <https://www.jiyu.ac.jp>

| Access | 西武池袋線ひばりヶ丘駅下車 徒歩13分

自由学園  
最高学部

Thinking Living Praying



Homepage



Instagram

Thinking Living Praying は、自由学園のモットーである「思想しつつ 生活しつつ 祈りつつ」を表しています。



バイオマス発電による自然エネルギー  
(60.75kWh)で印刷しました。

# 2027年度入学者募集要項

■募集定員4年課程:30名、2年課程:10名

## ■出願条件

以下のいずれかに該当し、2027年3月31日までに18歳に達する者で、かつ自由学園での学びに強い意欲がある者

1. 高等学校または中等教育学校を卒業した者または2027年3月卒業見込みの者
2. 高等学校卒業程度認定試験(旧大学入学資格検定)合格者
3. 専修学校の高等課程を修了した者、または2027年3月修了見込みの者

## ■内部推薦R方式試験(単願)

「出願条件」に追加する条件:自由学園高等部を卒業した者または2027年3月卒業見込みの者で、高等部部長の推薦を受けられる者。評定平均4.0以上。合格した場合、入学を確約できる者。  
試験内容:面接試験

願書受付期間	2026年8月24日(月)～8月28日(金)
試験日	2026年9月9日(水)
合格発表日	2026年9月10日(木)
手続締切日	2026年9月25日(金)

## ■内部推薦S方式試験(単願)

「出願条件」に追加する条件:自由学園高等部を卒業した者または2027年3月卒業見込みの者で、高等部部長の推薦を受けられる者。合格した場合、入学を確約できる者。

試験内容:面接試験、筆記試験

試験科目:国語:現代の国語、言語文化(古文・漢文を除く)、論理国語。

数学:必須問題で数学I、数学II。選択問題で数学A(場合の数と確率)、数学B(数列)、数学C(ベクトル)の中からいずれか1題。

英語:英語コミュニケーションI、英語コミュニケーションII、論理・表現I  
以上からリーディング、ライティングを出題する。

	1回目	2回目	3回目
願書受付期間	2026年8月24日(月)～8月28日(金)	2027年1月4日(月)～1月8日(金)	2027年3月8日(月)～3月10日(水)
試験日	2026年9月9日(水)	2027年1月27日(水)	2027年3月17日(水)
合格発表日	2026年9月10日(木)	2027年1月30日(土)	2027年3月18日(木)
手続締切日	2026年9月25日(金)	2027年2月19日(金)	2027年3月26日(金)

## ■指定校推薦試験(単願)

「出願条件」に追加する条件:指定校※を2026年度中に卒業見込みの者。評定平均が4.0以上で人物も含め校長が責任をもって推薦できる者。または校長が人物・学力共に責任をもって推薦できる者。合格した場合、入学を確約できる者。

※指定校は自由学園最高学部が指定する高等学校及び教育施設。

試験内容:面接試験

願書受付期間	2026年8月24日(月)～8月28日(金)
試験日	2026年9月9日(水)
合格発表日	2026年9月10日(木)
手続締切日	2026年9月25日(金)

## ■総合型試験(併願可)

「出願条件」に追加する条件なし

試験内容:面接試験、筆記試験

試験科目:国語:現代の国語、言語文化(古文・漢文を除く)、論理国語。

数学:必須問題で数学I、数学II。選択問題で数学A(場合の数と確率)、数学B(数列)、数学C(ベクトル)の中からいずれか1題。

英語:英語コミュニケーションI、英語コミュニケーションII、論理・表現I  
以上からリーディング、ライティングを出題する。

	1回目	2回目	3回目
願書受付期間	2026年11月16日(月)～11月20日(金)	2027年1月4日(月)～1月8日(金)	2027年3月8日(月)～3月10日(水)
試験日	2026年11月28日(土)	2027年1月27日(水)	2027年3月17日(水)
合格発表日	2026年11月30日(月)	2027年1月30日(土)	2027年3月18日(木)
手続締切日	2026年12月18日(金)	2027年2月19日(金)	2027年3月26日(金)

# 校納費

2026年度

校納費	通学生	男子(しのめ寮)		女子(光風寮)	
(月謝)		1人部屋	2人部屋	1人部屋	2人部屋
授業料	72,000	72,000	72,000	72,000	72,000
光熱衛生費	3,500	3,500	3,500	3,500	3,500
維持費	8,000	8,000	8,000	8,000	8,000
保護者会費	1,900	1,900	1,900	1,900	1,900
食費	17,500	17,500	17,500	17,500	17,500
舎費		21,000	16,000	21,000	16,000
寮光熱費		8,000	8,000	8,000	8,000
寮食費		20,500	20,500	17,000	17,000
月謝	102,900	152,400	147,400	148,900	143,900
年費	1,217,300	1,790,800	1,730,800	1,752,300	1,692,300

- ・地方からの学生は、男子(しのめ寮)、女子(光風寮)に入寮できます。定員あり。
- ・しのめ寮、光風寮では、平日夕食の提供があります。
- ・8月は食費/寮食費の徴収がありません。
- ・寮生は入寮時に寮施設充実費100,000円がかかります。
- ・しのめ寮生は入寮時に保証金100,000円をお預かりし、退寮時居室の補修などに充当し精算します。

# 奨学金について

自由学園最高学部では、学費の支弁が困難な経済的援助をする学生や学業を奨励するための奨学金制度を次のように設けています。

なお、奨学金には返還義務のない「給付」奨学金と、原則卒業後から返還する「貸与」奨学金の2種類があります。

## 1. 学内奨学金

■学校法人自由学園羽仁もと子育英基金(給付)

1. 授業料の半額を、自由学園に入学した時点から最高学部卒業まで支給します。
2. 奨学金の受給資格は、「自由学園の思想と実践を深く理解し、共有してくださるご家庭のお子様で、自ら学ぶ意欲があるが、経済的理由で自由学園での修学が困難な方」です。経済状況の判断は自由学園の基準によります。

■学校法人自由学園地方生奨学金規程(給付)

1. 地方生の舎費・寮食費を給付する制度です。
2. 奨学金の受給資格は、経済的な理由で自由学園への入学及び修学が困難と認められた地方からの寮生に限ります。経済状況の判断は自由学園の基準によります。

■最高学部研究奨励金規程(給付)

海外での学びについて上限として10万円以内を支給、国内での学びについて5万円以内を支給する制度。予算総額があるため定員がそれぞれあります。申請資格は海外での学び、国内での学び、それぞれについて意欲的な研究活動計画を策定した学生です。

## 2. 学外奨学金

■日本学生支援機構奨学金(貸与)

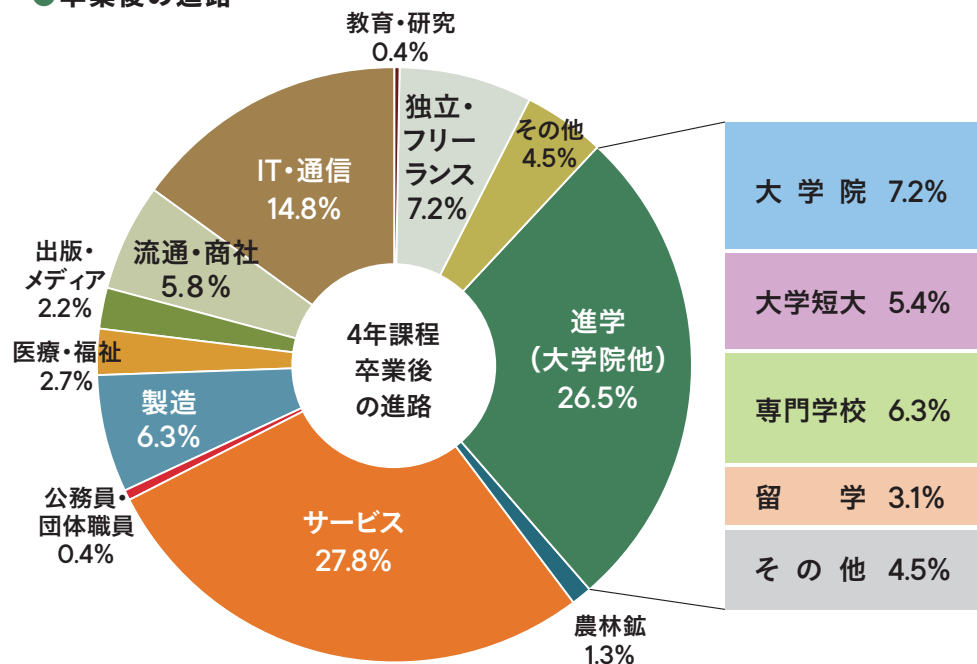
第一種奨学金(無利子)、第二種奨学金(有利子)、第一種第二種の併用がありますが、いずれも父母(生計維持者)の家計基準を満たしていることが条件となります。

## 3. 大学無償化の制度について

3人以上の子どもを扶養している多子世帯を対象とした「高等教育の修学支援新制度」(大学無償化の制度)については、自由学園最高学部が各種学校であることからこの制度を利用することはできません。

## 4年課程卒業後の進路状況（過去10年間）

### 卒業後の進路



### 大学院進学先

茨城大学大学院農学研究科、学習院大学大学院人文科学研究科、学習院大学大学院経営学研究科、慶応義塾大学大学院理工学研究科、高千穂大学大学院経営学研究科(2)、東京学芸大学大学院教育学研究科、東京大学大学院学際情報学府、東京大学大学院総合文化研究科、東京都立産業技術大学院産業技術研究科、東京農工大学大学院農学部、立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科(2)、立教大学大学院ビジネスデザイン研究科(2)、立教大学大学院文学研究科

### 就職先

**【サービス】** 朝日設計 / ANAエアポートサービス / ウェルカム (DEAN&DELUCA) / エイチ・アイ・エス / グッド・クルー / カトープレジャーグループ / CROS / 劇団四季 / 五千尺ホテル上高地 / ジェイアイエヌ / 西花園 / セコム / SOLIZE / 大東建託 / 高見 / テイクアンドギヴ・ニーズ / 東京スバル / 東芸エンタテインツ / 南西楽園リゾート / 日本住宅 / ノジマ / バイク王&カンパニー / ハウスオブローゼ / ファーストリゾート / Piece / ファイントラック / 藤浪小道具 / FREITAG / 星野リゾート / 三菱電機ビルソリューションズ / 森ビルホスピタリティコーポレーション / リトモ / 良品計画 / レッドホースコーポレーション / 槍ヶ岳山荘グループ

**【IT/通信】** IIMヒューマン・ソリューション / インテック / エーステクノロジー / NDIソリューションズ / エフ / 大塚商会 / キューアンドエーワークス / 金融エンジニアリング・グループ / クレスコ / CSエコー / シンプレクス / ソフトバンクグループ / ダイナシステム / 電算 / 勲楽ホールディングス / トラIDENT / BIPROGY / BLUEISH / BREXA Technology / ワークアイデイ

**【製造】** アルミック / 飯尾醸造 / オカムラ / ワキタCSS技術開発 / 信濃工業 / ダイドー / 東京サラヤ / ニチベイ / ニ上 / メルディア / やまびこ

**【流通・商社】** SBSホールディングス / SBSフレック / カカシ米穀 / コストコホールセールジャパン / サンベルクス / JKホールディングス / 羽根田商会 / 平和紙業 / ベジコープ

**【出版・メディア】** オーナーズ・スタイル / かんぼう / IMAGICAコスモスペース / サイクルワークス / 三省堂印刷 / スフィアリンクス / 都市出版 / PARAGON DIGITAL DESIGN / 婦人之友社

**【医療・福祉】** 木下の介護 / CNC / 友愛学園

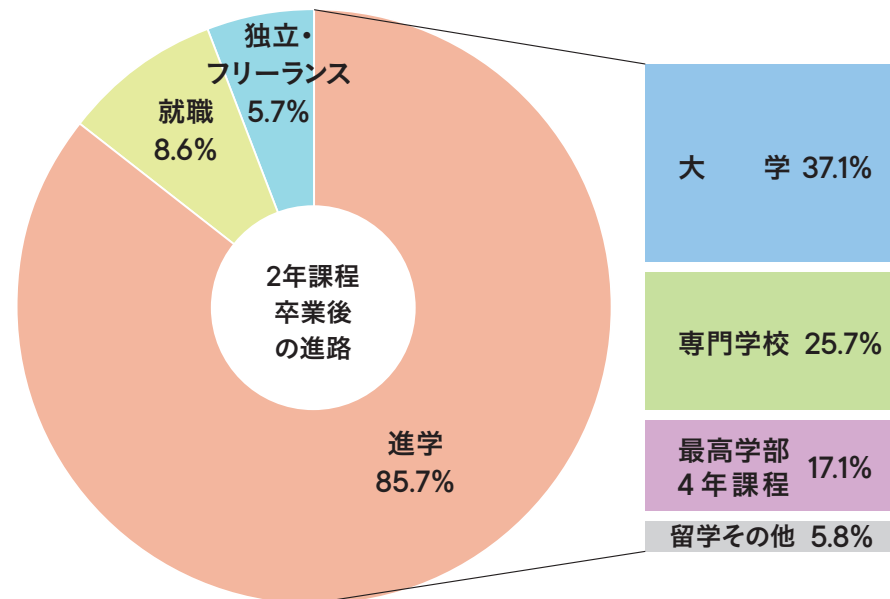
**【農林鮎】** 自由学園那須農場 / タマ / 森のたね

**【公務員・団体職員】** 海上保安庁 / 日本ブラインドサッカー協会

**【教育・研究】** 自由学園

## 2年課程卒業後の進路状況（過去10年間）

### 卒業後の進路



### 『自由学園最高学部・後期課程ゼミナールの紹介』（2024年11月発行）



最高学部後期課程の3、4年では、フィールドサイエンス、ヒューマンサイエンス、データサイエンス、ライフスタイル、マネジメントの5つのゼミの中から1つを選んで、専門的に研究を行います。この冊子は、5つのゼミの詳細な内容を紹介しています。QRコードからご覧ください。



### 『生きかた探訪記』（2024年4月発行）



創立100周年を機に6年間かけて卒業生にインタビューをした「自由学園100人の卒業生+」は、自由学園のホームページに掲載されています。この冊子は、このインタビューの中から、17人のインタビューを、今自分を探している皆さんの力になることを願って再編集したものです。QRコードからご覧ください。

